

家庭教育力の強化を図ろう

～ 楽しいこと・思い出づくりから家庭での会話を増やそう ～

西尾市立西尾小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、西尾市街地の中心部に位置し、校舎がある場所は、かつての西尾城の東ノ丸にあたる。敷地内には堀跡や太鼓門跡、古井戸跡などがあり、現在、堀の遺構をビオトープとして活用している。全校児童数は702名で、特別支援学級を含めた学級数は26学級の学校である。



【卒業記念ドローン撮影の様子】

2 研究のねらい

今年度の本校は、「一生懸命はかっこいい！」を合言葉に、学校経営方針として「子供と教師が共に伸びる学校」「保護者や地域の期待に応え、地域と共にある学校」が掲げられている。

P T Aとしても学校の方針に沿いつつ、各種行事を通じて「家庭内で子供と親が会話するきっかけ」を増やすことで、「家庭教育力の強化」につなげることをねらいとした。今年度も新型コロナウイルス感染状況による今後の影響が読みづらく、大人数を対象にした活動はリスクがあり、学術的なアプローチでは多くの家庭で受け入れられがたいと考え、工夫して行事を実施した。

3 研究の仮説

親子で話題になりそうな楽しく思い出に残る行事を実施し、家庭内で子供と親が会話する機会を増やすことで、家庭教育力の強化を図ることができるであろう。

4 研究の方法

二つのP T A行事を研究対象に定め、企画・開催を通じて、児童、教職員、P T A役員の反応から検証することとした。ただし、研究のための活動ではなく、あくまでP T A行事の副次的効果として「家庭教育力の強化」があると位置付けた。

5 研究の実践

(1) 西尾祇園祭市民総踊り「おどりん西尾」参加

毎年7月に開催される「西尾祇園祭」は、市内で最も規模の大きい祭りであり、多くの児童が楽しみにしている夏のイベントの一つとなっている。

2022年度は感染予防を徹底して祭りの開催が決まり、市民総踊り「おどりん西尾」も児童の有志を募って参加することにした。ただし、参加決定から開催される7月までの間は、新型コロナウイルス感染対策で行動制限も多かったため、PTAや教職員の負担も考慮して、6年生有志(23名)で参加した。



【「おどりん西尾」に参加する本校児童】

(2) 西小PTA親子ふれあい夏祭り

2021年度、感染予防策が講じやすい屋外行事として初開催した夏祭り(打ち上げ花火メイン)を、2022年度も地域行事の中止や縮小を予測し、例年通り開催した。当日は、西小サマークリーンアップ(清掃活動)と同日開催で、縁日イベントや打ち上げ花火を実施した。なお、目的の一つとして、学校へ親子で徒歩で訪れることで登下校時の危険個所を一緒に確認するという意味を持たせ、夏の思い出づくりと家庭での会話のきっかけづくりにつなげた。



【親子ふれあい夏祭りの打ち上げ花火】

6 研究の考察

「おどりん西尾」については、PTA役員と参加児童の保護者間で学校教育以外の交流も生まれたほか、必然的に児童と保護者の会話が生まれたと推察している。また、市内の多くの児童も訪れる祭りに6年生児童が出場し、結果としてグランプリを受賞できたこともあり、話題づくりにつながったと考える。夏祭りについても多く家族が参加し、親子で会話するきっかけづくりとなったと考える。

7 成果と今後の課題

活動中には気付かなかったが、「家庭教育力の強化」というテーマは情報社会、学歴社会、サービス過剰社会の弊害とも言えるテーマだと感じた。自分の身の回りのことは自分でやるといった当たり前のことや、人と人とのつながりから共に一つの社会を育む力は、学校教育で教わるのではなく、家庭教育や地域教育から得られるものだと考える。

そのためにも、PTAは主体性をもった社会人を体現する活動であり、「家庭教育力の強化」において必要不可欠な組織だと考える。しかし、各校PTAエリアの協議会において、企画される事業の一部は慣習的に開催されているものも多く、活動の負担になっていることも少なくない。活動の本質である「児童のため」に何をすべきか、何をすべきでないかということを常に考え、PTA活動へ主体的に参加できる大人を増やすことが課題と捉えている。